

第2期堺文化芸術推進計画策定にかかる関係者からの意見聴取について

○市内文化団体

- ・市内の文化団体では現状、アートマネジメントについての知識が乏しい。市や堺市文化振興財団が先行事例を示す、また文化団体がどう活動すべきなのか指示、指導して欲しい。
- ・アートマネジメントの研修も是非実施して欲しい。我々も参加する意欲はある。
- ・子どもたちが文化芸術に触れる機会の充実は大変重要であると思う。我々が学校に働きかけることはできないが、事業の協力要請あれば積極的に協力していきたい。
- ・教育や福祉が重要なのは理解できるが、文化施策も同様に重要である。行政には文化施策への予算配分を積極的に行って欲しい。
- ・アフターコロナで文化団体が市民にどういった還元ができるのか様々な方策を検討している。
- ・文化に触れてもらえる機会の拡充は現役世代には難しいと考えており、子ども向け事業を拡充していくべきであると考えている。

○小学校教諭（ミーツアート実施校）

- ・事業内容、質の高さについて満足している。
- ・思ったほど学校側の準備に係る手間も少なく手軽に利用できる。新規実施校の拡充のためには学校側にとって、準備の手間がないことや、他の実施校での満足度の高さ等をもっとPRすればよいのではないかと。
- ・1回の授業で効果を発揮することは難しいと思うが、学校現場のカリキュラムが盛りだくさんで、ミーツアート事業を複数回受ける時間がない。
- ・ICTを活用した事業展開というのが、あまりピンとこない。こういう授業はやはり生で実施もらうのが一番良いと考えている。もしも活用するのなら、生で演奏を聞いたうえでICTを補足的に使ってしてもらう形であればいいかもしれない。
- ・堺には色々良い文化があるが、ミュージアムや博物館等が点在しており場所が違って活用しにくい。堺ミュージアムが実現すると一か所で博物館も美術も見られることは非常にいいことだと思う。

○福祉関連施設職員

- ・文化芸術は人々の元気を養うためのものであり、誰もが楽しめることが重要となる。
- ・次期計画に掲げる子どもが輝く社会の実現は非常に大事である。
- ・日常の練習及び活動の場はもちろんのこと、やりがいを出すためには発表の場も必要となる。
- ・新型コロナウイルス感染症の結果、在宅の機会が増えたため、障害者のアート作品展への出展作品数は大幅に伸びており、文化芸術の裾野を広げるためには発表の場が必要である。
- ・ワークショップ等の日常的な活動については、絵具や鉛筆等の消耗品がすごい勢いで減っていくため、それら日常的な活動に対する補助制度があればありがたい。
- ・健常者も障害者もフラットな関係で障害者だからと言って特別扱いせず付き合うことが大切である。

○子どもを対象とした事業を実施したアーティスト

- ・子どもはスポンジであり、環境によって大きな影響を受ける。一律で事業を実施するのではなく、それぞれの個性に合った進め方を検討する必要がある。
- ・子ども向け事業を行う際には地域の歴史の要素を取り入れれば、歴史の再発見につながるとともに地域のPRも同時に実現できる。
- ・アーティスト同士のつながりにより、各々が培った知識の共有がアーティストが成長していくには必要となる。また、アートを通じて知らない人同士がつながることができるきっかけとなればよい。